

救急業務における DX 推進
救急搬送支援システムの実証実験開始
～救急搬送の迅速化、救急業務の効率化への取り組み～



那覇市消防局では、令和6年4月16日(火)より、実証実験参加医療機関(※)及び協力事業者(TXP Medical 株式会社)と連携し、「救急搬送支援システム」の実証実験を開始します。
(※那覇市立病院、沖縄赤十字病院、沖縄協同病院、大浜第一病院、浦添総合病院、友愛医療センター、県立南部医療センター、琉球大学病院)

■那覇市の救急体制の現状

令和5年中における救急出動件数は 23,701 件を記録し、2年連続で過去最高を更新しました。特に、令和4年以降、救急要請件数の急増と、沖縄県内の救急医療ひっ迫状態が重なり、救急隊が現場に到着しても、受入先が見つからない救急搬送困難事案※が急増しており、市民サービスへの影響及び、昼夜を問わず長時間の救急活動となる救急隊の業務負担は極めて重大な状況に陥っています。このような背景の下、迅速かつ効率的な救急体制の整備が急務とされています。

(※救急隊による「医療機関への受入れ照会回数4回以上」かつ「現場滞在時間 30 分以上」の事案)

■本実証実験の目的

①市民サービスの向上

救急活動時間の短縮によって「適切な早期搬送」、「保留事案の件数減少」を図る

②救急事務の負担軽減

救急隊の業務負担となっている二重作業の「手書きの記録票」と、「消防 OA 入力 of 報告書」をDX化することで解消する

■本実証実験の期間

令和6年4月16日(火)～令和6年5月27日(月)

■本実証実験の概要

- ① タブレット端末を使用して画像 OCR や音声入力などの機能を活用し、傷病者情報を集約
- ② 搬送予定の医療機関へ傷病者情報を送信し、病院連絡に加えて病院側で情報を可視化できる
- ③ 帰署後、タブレット端末から消防 OA へデータを取り込み、報告書作成時間の短縮化



■市民の皆さまへお願い

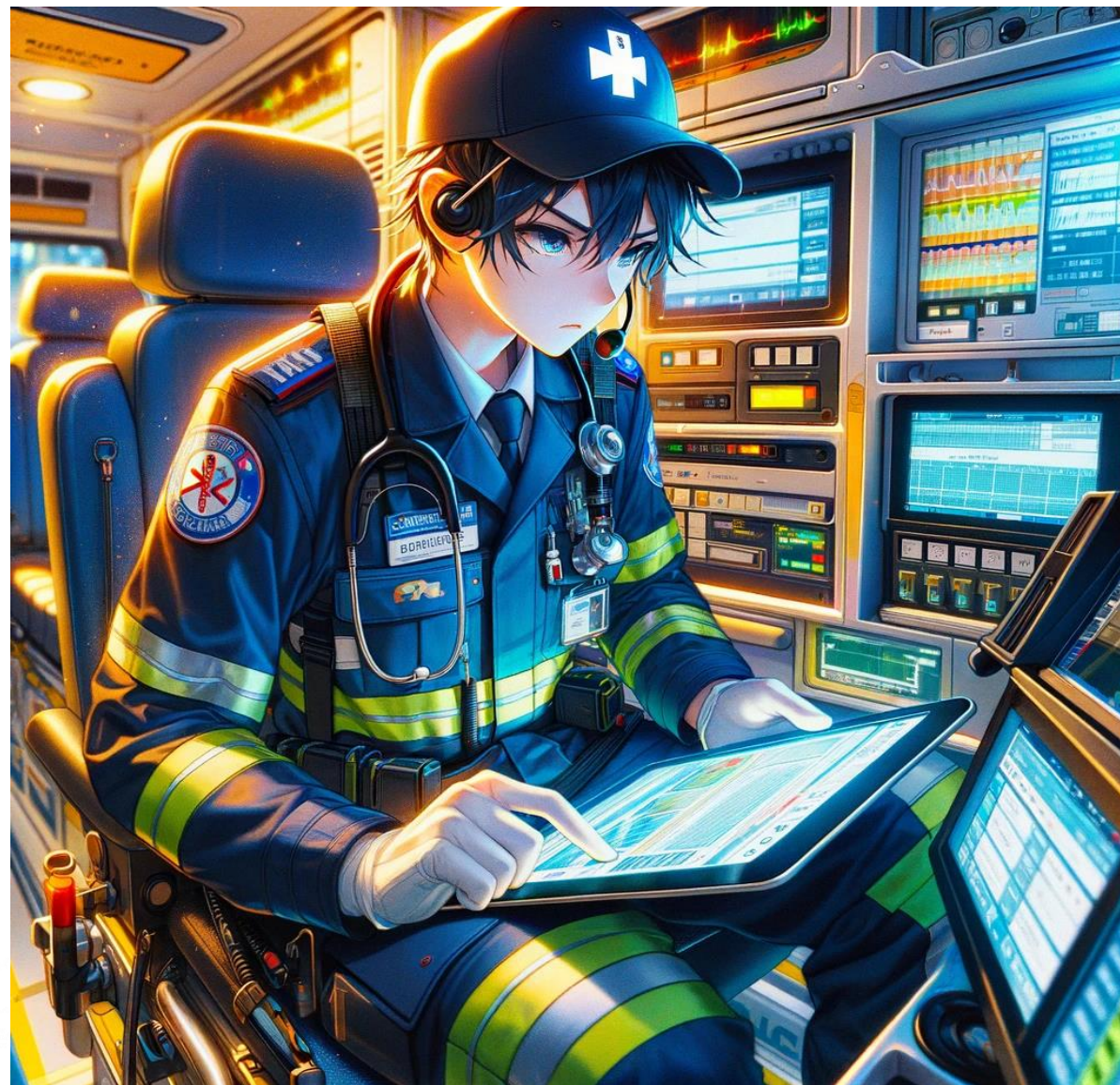
実証実験期間中、本市救急隊が保険証やお薬手帳等をタブレット端末で撮影させていただくケースがあります。個人情報、医療情報の安全管理に関わる関連ガイドラインに準拠して適切に管理いたします。ご理解のほどお願いいたします。



実証実験に関するお問合せ先
那覇市消防局 救急課 大城・金城
(098-867-1199)naha_f_kyu001@city.naha.lg.jp

4月16日スタート

那覇市消防局
救急DX「救急搬送支援システム」



那覇市消防局 救急DX「救急搬送支援システム」



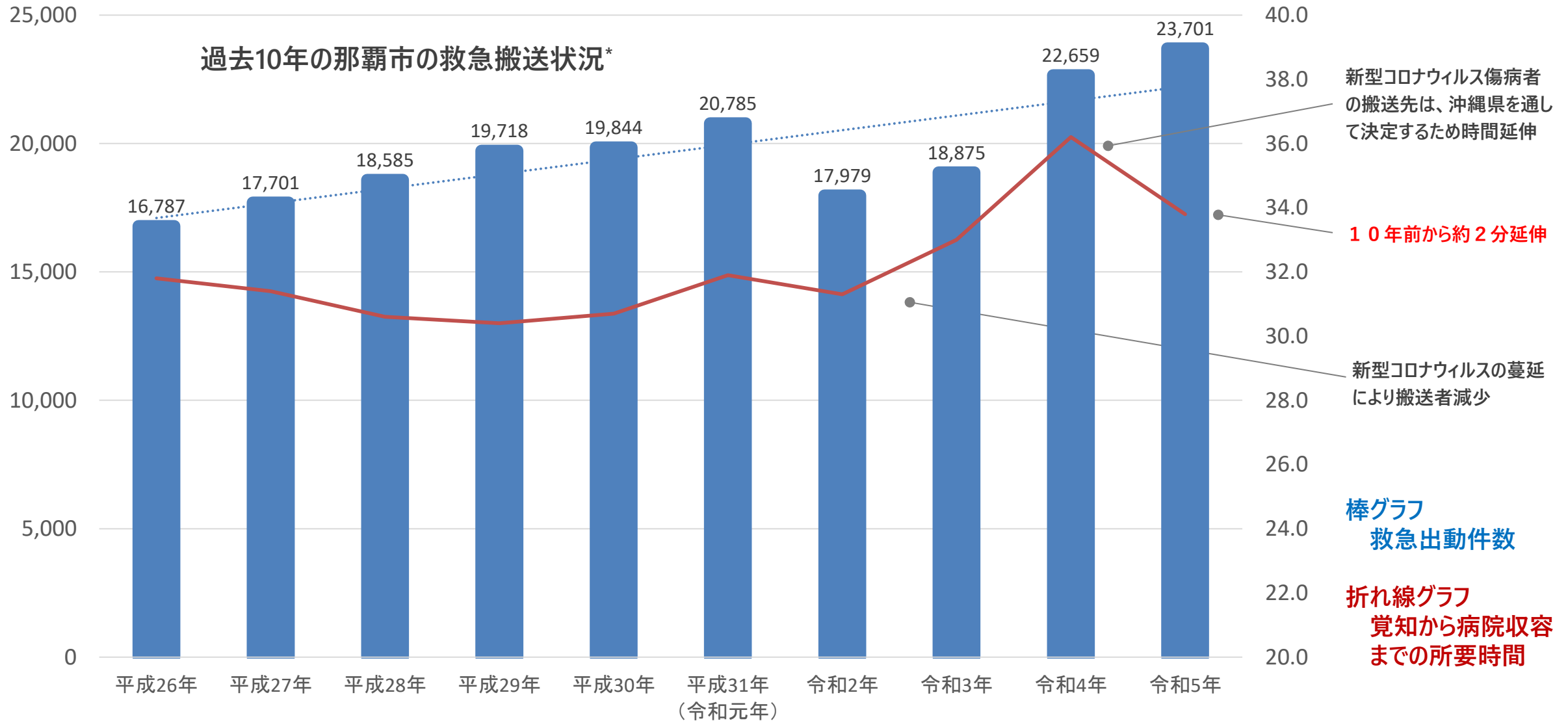
期間：令和6年4月16日(火)～令和6年5月27日(月)

協力医療機関（近隣8医療機関）

那覇市立病院	大浜第一病院	沖縄協同病院	沖縄赤十字病院
浦添総合病院	県立南部医療センター	琉球大学病院	友愛医療センター

課題1 救急搬送の長時間化

時間短縮	マッチング最適	業務効率
------	---------	------



平成26年～令和5年

課題2 非効率な書類作業

時間
短縮

マッチング
最適

業務
効率

現場～搬送先病院

帰署後



現場状況メモ

様式第5号(その3)(第30条関係)
救急隊活動記録(医療機関控)

所属	救急隊長()	II・標準	種別	年 月 日	出場番号			
フリガナ 氏名	M・T・S・H		年 月 日 生 才位(男・女)	電話番号				
住 所	掛かり付け病院		関係者連絡 済・未	関係者(氏名)	無			
職業	発生場所	発生時刻	時 分	事項				
通病内容								
主訴:								
アレルギー:								
ADL:								
内服薬:								
既往歴:								
最終食事:								
覚知	現場到着	傷病者接触	車内収容	病院搬送	現 発	病 着	病院収容	
: :	: :	: :	: ~ : :	: :	: :	: :	: :	
時 系 列	: :	: :	: :	: :	: :	: :	: :	
観 察 項 目	JCS (GCS)	呼吸	脈拍	血圧	EDG	SPO2	瞳孔	
経 過							体温	
応 急 処 置								
口頭指導 (口指令) 救急隊) 時 分 バイスタンダーCPR実施者 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 他 () 時 分								
心臓停止日撃者 (家族) 救急隊 <input type="checkbox"/> 他 () 初期E.C.G.波形 () I.C. () 時 分								
医師への指導・助言 要請内容 (: ~ :) 指導医師名 _____								
<input type="checkbox"/> IV確保 (G) <input type="checkbox"/> アドレナリン投与 <input type="checkbox"/> 気道確保 () <input type="checkbox"/> 血糖測定 <input type="checkbox"/> ドック投与 <input type="checkbox"/> エピベン投与								
傷病名	診療科目	搬送理由 <input type="checkbox"/> 怪打 <input type="checkbox"/> 直交 <input type="checkbox"/> 輸送 <input type="checkbox"/> 希望 <input type="checkbox"/> その他 ()	収容医療機関					サイン
病院 <input type="checkbox"/> 通院 <input type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> W未満 <input type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> W以上 <input type="checkbox"/> 死亡								

感傷等の疑いがある場合は、ご連絡ください。

活動記録票に記入

消防署



消防OAシステムへの入力

- 1事案あたり約15分かけて手入力
- 入力内容は総務省消防庁の統計資料となる

病院



電子カルテ等への入力

- 救急隊より引き継いだ活動記録票の病院控をもとに病院到着前の状況を記録
- 救急車台帳など電子カルテ以外の帳票にも記入

毎年救急出動件数が増加する中、二重作業が救急隊を圧迫している

救急現場での傷病者情報のデジタル化

現場での記録項目を全てデジタル化。音声/画像解析による入力支援により迅速な傷病者の情報記録を実現。

免許証・保険証OCR



時系列のワンタップ入力

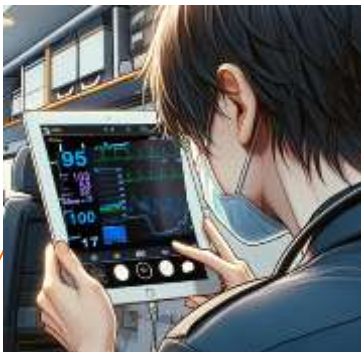
AVMモニターの画面OCR入力も可能

時系列・住所	
覚知・入電	17:03
指令	17:03
出動	17:03
到着	17:16
車内収容	17:20
脱着	17:25
到着	17:39



モニター画面OCRによるバイタル AI入力

写真からバイタルの各数値を自動でピックアップ



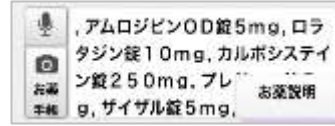
傷病経過音声入力

サイレン
鳴動中の
環境に対応。



お薬手帳OCR

服薬歴をリスト化。既往歴、アレルギー等の把握も可能に。



心肺停止時の情報登録

4つの波形や処置を
ワンタップで記録可能



現場・患部の写真記録

口頭では伝わりにくい情報を
写真で記録して病院に共有



脳卒中患者の情報登録

自治体で採用している
脳卒中スケールを利用可能。



病院へ
送信して
受入要請

病院への受入要請

病院内オンライン端末での現場情報表示 (Webブラウザ)

現場情報の可視化により大きな時短効果が得られる。

患部の写真など、口頭では伝わりづらい状況もビジュアルイズになり、電話での口頭説明よりも早く状況を把握。

加えて、ミスコミュニケーション削減できるため、傷病者と病院のミスマッチ削減も期待できる。

那覇市立病院

救急隊搬送 紹介患者 全事案

予後入力

時刻	救急隊	患者情報
07/24 22:14	首里救急隊	48歳 男性 脳卒中疑い、
07/24 19:18	神原第2救急隊	性別 不明 心肺停止、脳卒中疑い、
07/24 16:50	小禄救急隊	29歳 女性

48歳 男性 脳卒中疑い、

JCS 20 GCS - - -

HR	72
BP	111/53
SpO2	97
RR	21
BT	36.5

氏名 につぼん たろう
日本 太郎
生年月日 昭和50年 5月 5日 (48歳)

主訴 脳卒中疑い、

現病歴 最終健常時間：22時00分

既往歴 高血圧、脳梗塞、

内服 ワイパックス錠(0.50.5mg)、リスペリドン錠(1)、イフェクサーSRカプセル(75mg)、リスパダール錠(1mg)、パキシル錠(20mg)、ラボナ錠(50mg)、サイレース錠(2mg)、プロチゾラムOD錠(0.25mg)、レンドルミンD錠(0.25mg)、モディオダール錠(100mg)、クエチアピン錠(25mg)、リフレックス錠(15mg)、ラミクタール錠(100mg)、ピコスルファートナトリウム錠(2.5mg)、ラキソベロン錠(2.5me)、リボトリール錠(1mg)

QRコード

転院搬送 引継 活動記録票

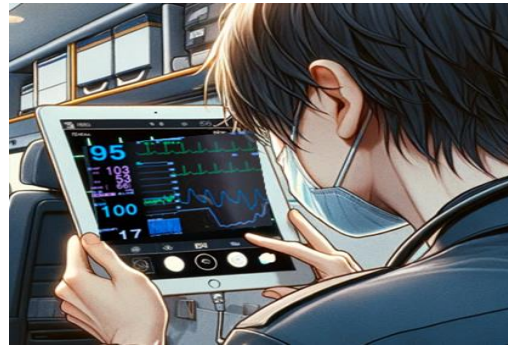
電子カルテへのデータ連携

QRコードリーダーで読み取ると、救急隊からの連携情報をオンプレミスの電子カルテへ取り込み可能。病院は本機能を無料で利用できる。



救急隊からの那覇市民のみなさまへお願い

実証に伴い、免許証・モニター・お薬手帳・外傷部分・事故現場などをタブレットにて撮影いたします。
個人情報、医療情報の安全管理に関わる関連ガイドラインに準拠して適切に管理いたします。
ご理解のほどお願いいたします。



救急DXを推し進め、より良い救急医療を提供いたします。
何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

